



↑生物室に侵入したスズメバチ

最も恐れられている昆虫 スズメバチ

11月8日の午後の事だった。生物室で低周波をスピーカーから出す装置の調整をしていると、首の辺りにただならぬ気配を感じた。顔からわずか数センチの所に**一匹のスズメバチ**が止まっていたのだ。スズメバチは音に敏感なので、スピーカーから流れる音を仲間の羽音と間違え引き寄せられたのかもしれない。もし首でも刺されたら…。無意識のうちに、私は白衣を脱ぎ捨てていた。しかし、このスズメバチには、もう飛ぶ力は残っていないかった。

わずか数秒間の出来事だったが、怖かったのは事実である。現在、日本で最も恐れられている昆虫は、間違いなくスズメバチであろう。スズメバチの活動が活発になる夏から秋にかけて、テレビ番組での「スズメバチ特集」は二桁を下らない。いまや「**アナフィラキシーショック**（2度目に刺された時の激しいアレルギー反応）」は小学生でも知っているのである。

栃木県立博物館では、来年4月まで「**スズメバチ展**」が開催されている。スズメバチの知られざる姿が満載で見ているおもしろい。展示のセンスも抜群である。テーマ展を担当された自然課学芸嘱託員の**福田博一**さんは、ハチの分類が専門（茨城大学理学部生物科学コースで学ぶ）で、今回のテーマ展の標本製作のために県内各地を飛び回ったそうである。

県内に生息しているスズメバチ属は6種であるが、近年問題になっているスズメバチのほとんどは、都市部に適応した**キイロスズメバチ**である。

冬を越した一匹の女王バチは、初夏に**働きバチ**（メス：産卵管が毒針になっている）を産み、コロニーを拡大させる。そして、秋には来年に女王となる**新女王バチ**と交尾をさせるための**オスバチ**（針を持たない）を産む。この頃、巣の規模が最大になり、新女王バチを守るために働きバチが攻撃的になるのだという。11月頃には、新女王バチとオスバチたちは**二度と戻ることのない結婚飛行**に旅立ち、最終的には交尾を終えた新女王バチ以外は冬を越すことができず、死んでしまうのである。先日、生物室を訪れたスズメバチは、寒さでほとんどかたまっていたオスバチだったのである。なお、新女王バチといえども、春まで生き残れるものはごくわずかである。

テーマ展では、**春・初夏・夏・秋**に、キイロスズメバチの巣内の成虫を一匹残らず標本にしたものが展示されている。幾何学模様をなす標本の配置が**社会性昆虫**として進化したスズメバチの特徴をよく表しており、秀逸な展示である。ぜひ、博物館で本物を見て欲しい。



↑テーマ展の巨大モニュメント

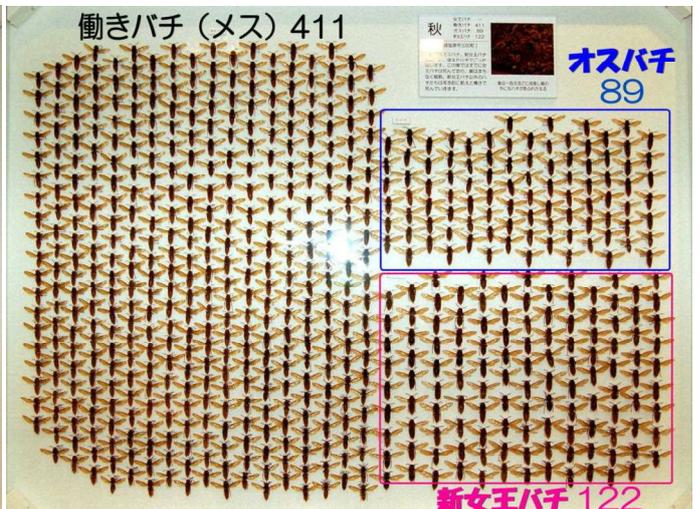
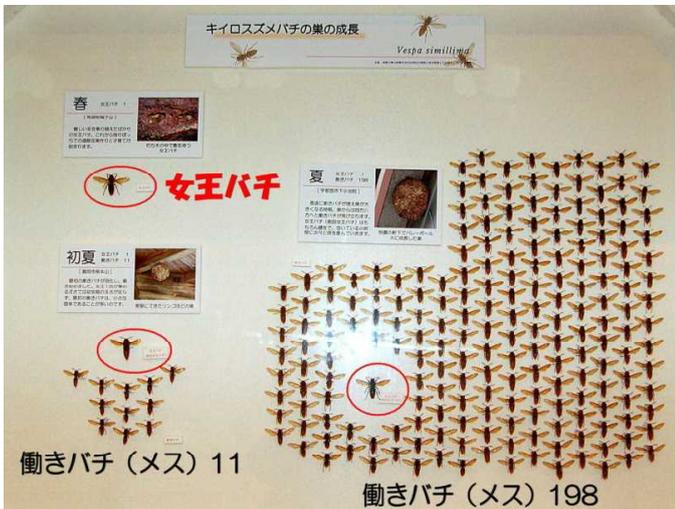


↑キイロスズメバチの巣

福田博一さん



↑巣の中から幼虫やさなぎを取りだしている



↑上の2つの図は、テーマ展で展示されていた標本を写真に撮ったものに筆者が囲みや文字を加えたものである。>

